

## 東三河地域の病院機能に関するアンケート結果 1. 慢性期

所在地	病院名	患者が療養病棟に入院する経路のうち、最も件数が多いもの	療養病棟で行っているリハビリの目的として最も件数が多いもの	療養病棟における入院患者の療養の目標・目的として、最も件数が多いもの	療養病棟に入院している、または入院可能な患者の医学・身体的な状況	療養病棟で救急車を受入れることはあるか。ある場合は、その年間の件数と、患者の医学・身体的な状況	対応可能なリハビリの領域、疾患等	高齢者施設等との連携状況	療養病棟の年平均のおおよその稼働率	療養病棟の余力	「余力がない」と回答した場合、その要因について	高次医療機関から療養病棟へ転院を受ける場合、どの施設からの転院を受け入れることが多いか。またその患者状態等に関する条件	転院を行う際、申し込み完了から実際に転院が完了するまでの期間	高次医療機関からの患者の転院を受け入れる際の患者の移動手段について	築年数	貴院における専門職の人数
豊橋市	二川病院	高次医療機関（急性期病院）から	疾病前の状態（一定の介護サービスは必要）を目標としたADLの回復を図ること	現状の全身状態を維持（一定の介護サービスは必要）すること	病状は比較的稳定しているものの引き続き医療行為が必要な方、または高度先進医療を必要としない高齢者の急性期疾患	高度先進医療を必要としない高齢者疾患（肺炎、脱水など）実績年間10件程度	脳血管障害、運動器疾患	病状安定後は施設入所施設入所者の病状悪化時の入院受入	7～8割	現状以上に受け入れたい		豊橋市民病院	1日～7日	介護タクシー	35年	医師 常勤3名 非常勤6名看護師 常勤13名 非常勤10名准看護師 常勤14名 非常勤4名薬剤師 常勤1名理学療法士 常勤5名作業療法士 常勤2名管理栄養士 常勤1名
豊川市	国府病院	高次医療機関（急性期病院）から	現状のADLを維持（一定の介護サービスは必要）すること	現状の全身状態を維持（一定の介護サービスは必要）すること	透析患者に特化した療養病床となっております。	ありません。	運動器リハビリテーション1脳血管疾患リハビリテーション2呼吸器リハビリテーション2	今のところありません。	9割以上	現状以上に受け入れたい		豊川市民病院・岡崎市民病院・成田記念病院療養が必要な透析患者です。	病床の空き次第ですが、空床ができれば3日～4日以内で転院が完了します。	当院より送迎車を無料で転院元に出します。当院負担での送迎を行っております。	2026年2月で満5年です。	医師：常勤4名 非常勤9名 看護師：常勤38名 非常勤1名 薬剤師：常勤2名 非常勤1名理学療法士：常勤4名 作業療法士：常勤1名 管理栄養士：常勤2名
	タチバナ病院	高次医療機関（急性期病院）から	リハビリ設備なし（検討中）	疾病前の全身状態（一定の介護サービスは必要）まで回復すること	慢性期 自立～寝たきり	急性期症状での受け入れが多い為、紹介または外来での対応が多い	リハビリ設備なし（検討中）	症状悪化時の入院対応⇄回復後の再入所	5～6割	現状以上に受け入れたい		豊川市民病院	約1～2週間	介護タクシーによる搬送	約54年	医師（常2名 非17名） 看護師（常正6名 非正2名 常准6名 非准4名） 薬剤師（常1名） 管理栄養士（常1名） 診療放射線技師（常2名）
	共立救野病院	高次医療機関（急性期病院）から	現状のADLを維持（一定の介護サービスは必要）すること	現状の全身状態を維持（一定の介護サービスは必要）すること	継続的な医療行為が必要な方	ない	脳血管リハビリ運動器リハビリ	住宅型有料老人ホームブメハナ訪問診療、往診および緊急時の入院受入	9割以上	現状以上に受け入れたい		豊川市民病院医療区分2以上相当の方が望ましい（医療区分1の方も受け入れ可能だが人数に制限あり）	面談後病室の用意ができ次第可能早ければ1～2週間ほど	ほとんどが介護タクシーを利用患者様のADLによってはご家族の車で移動する事もある	25年	医師 常勤1名 非常勤9名薬剤師 常勤2名看護師 常勤12名 非常勤7名准看護師 常勤14名 非常勤2名看護補助者 常勤17名 非常勤10名管理栄養士 常勤1名診療放射線技師 常勤1名理学療法士 常勤6名臨床検査技師 常勤1名
	豊川青山病院	高次医療機関（急性期病院）から	現状のADLを維持（一定の介護サービスは必要）すること	現状の全身状態を維持（一定の介護サービスは必要）すること	医療区分の2以上に該当する方、積極的な治療を望まない方	ありません	脳疾患、整形外科疾患、嚥下障害	併設している豊川青山介護医療院と情報交換を行い、入退院調整をしている	7～8割	現状と同程度であれば持続可能		総合青山病院、豊川市民病院、他近隣の市民病院医療区分の2以上に該当する方	1～2週間程度	介護タクシー	25年	医師（常勤7、非常勤20） 看護師（常勤21、非常勤10） 薬剤師（常勤1） 理学療法士（常勤2） 作業療法士（常勤1） 言語聴覚士（常勤1） 管理栄養士（常勤1） 診療放射線技師（常勤1） 臨床検査技師（非常勤1）
蒲郡市	蒲郡東部病院	高次医療機関（急性期病院）から	現状のADLを維持（一定の介護サービスは必要）すること	現状の全身状態を維持（一定の介護サービスは必要）すること	・経口摂取が少ない又は困難のため点滴や経管栄養を行っている・歩行困難(脳血管障害、神経難病、骨折後)・癌終末期の緩和ケア・慢性呼吸不全にて酸素投与必要・肺炎や尿路感染で入院が必要な場合の急性期も受け入れます	基本的に無い。当院に通院中や連携している高齢者施設からの受診希望で受け入れることが年に1～2回程度ある。当院で対応可能な肺炎等の内科的疾患	脳血管障害、下肢骨折術後、腰椎圧迫骨折、神経難病	・高齢者施設の配置医師として、施設へ定期的な訪問診療、看取りを行っている。・当院が対応可能と判断した疾患が予想される場合には必要に応じて受診していただき、場合により入院していただく。また逆に 市民病院等への紹介も行っている。	7～8割	現状と同程度であれば持続可能	余力がないわけではないが、職員がもう少し増えればもう少し受け入れたい。	・蒲郡市民病院・豊川市民病院・豊橋市民病院・藤田医科大学岡崎医療センター患者状態：コロナやインフルエンザ等の急性期はお受けできません	1～2週間程度	介護タクシーが多く、自家用車の場合もある。	既存棟：築47年（1979年の開院当時から）増築棟：築12年（2014年増改築施工）	医師：常勤3、非常勤17 薬剤師：常勤のみ3 看護師：常勤43、非常勤2 准看護師：常勤のみ14理学療法士：常勤のみ3 作業療法士：0 言語聴覚士：0 管理栄養士：常勤のみ2 栄養士：非常勤のみ2 診療放射線技師：常勤のみ2
田原市	遷美病院	自院の他病棟から	現状のADLを維持（一定の介護サービスは必要）すること	現状の全身状態を維持（一定の介護サービスは必要）すること	喀痰吸引が必要な患者、経管栄養等で経口摂取困難な患者、寝たきりで褥瘡ケアが必要な患者、がん末期患者で麻薬による疼痛緩和が必要な患者、点滴の継続が必要な患者等。	なし。	すべての疾患別リハビリテーション及びがん患者リハビリテーションに該当する疾患に対応可能である。	あつみの郷が同一法人の介護老人保健施設で距離も近いので、退院後の施設先として利用が多くなっている。	5～6割	現状と同程度であれば持続可能		当院では直接療養病棟へ転院の受入をしていない。急性期病棟か地域包括ケア病棟で最初に受入をして、その後療養病棟へ転院をする流れとなる。	急性期病棟や地域包括ケア病棟であれば2～3日で受入対応可能。	介護タクシー。	築25年。	病院全体職員：医師（常勤36人非常勤40人）、薬剤師（常勤12人非常勤1人）、臨床放射線技師（常勤13人）、臨床検査技師（常勤22人非常勤4人）、理学療法士（常勤24人）、作業療法士（常勤9人）、言語聴覚士（常勤6人）、管理栄養士（常勤5人）、ソーシャルワーカー（常勤5人）、臨床工学技士（常勤4人）、O.M.A(非常勤1人)、保健師（常勤2人非常勤3人）、助産師（常勤7人非常勤3人）、看護師（常勤191人非常勤26人）、准看護師（常勤11人非常勤3人）、事務（常勤58人非常勤2人）、電気技師（常勤5人）、栄養士（常勤4人）、調理師（常勤10人非常勤2人）、介護福祉士（常勤2人）、炊事婦（夫）（常勤3人非常勤6人）、保清婦（夫）（常勤4人）、看護助手（常勤24人非常勤2人）、協働補助（常勤5人非常勤3人）療養病棟配置職員：医師（常勤3人）、看護師（常勤14人非常勤1人）、看護補助（常勤1人）
新城市	星野病院	高次医療機関（急性期病院）から	現状のADLを維持（一定の介護サービスは必要）すること	現状の全身状態を維持（一定の介護サービスは必要）すること	IVH・PICC、胃瘻・経鼻栄養、吸痰、悪性腫瘍、酸素吸入を要する方（HOT カニューラ マスク可、CPAP・NPPVは対象外、気管切開は対応不可）、認知症（著しい徘徊や他者への暴力ある場合は要相談）、褥瘡処置（程度により要相談）	年間10件程度COPD心不全 転倒 等	脳血管疾患、運動器疾患、神経筋疾患	近隣グループホーム：訪問診療及び受診、電話相談近隣老健施設：入院相談及び入居相談相互に情報交換、直接面談等をおこない、治療・療養目的を明確にしている。	9割以上	現状以上に受け入れたい				建物増築複数あり。 築年：①昭和45年 ②昭和55年 ③平成元年 ④平成12年 ⑤平成26年	医師：常勤2 非常勤7 看護師：常勤11 非常勤14 薬剤師：常勤1 理学療法士：常勤2 非常勤1 管理栄養士：常勤1	

2. 救急に関するアンケート結果(再掲)

病院名	昨年度(R6)の救急車受け入れ実績	救急車受入の余力	救急車を受け入れている時間帯	対応可能な救急患者	対応不可の救急患者(自由記載)	ドクターカーの運用状況(※ここでは医師等が同乗し現場で初期治療を行うものを指す)	ドクターカーの出動基準等ならびに保有台数について	患者搬送車の運用	患者搬送車の出動基準等と保有台数	より高次の医療機関からの患者の転院を受ける機会	転院元病院(上位3施設)	これらの患者の医学・身体的な状況	高次医療機関からの転院を受け入れる際の患者状態等の条件	高次医療機関から患者の転送を行う際の、事務手続き、窓口等	築年数	
豊橋市	豊橋市民病院	約7,000	現状と同程度の受入であれば持続できる	24時間365日	胸痛、腹痛、背部痛、外傷、意識障害、体動困難などあらゆる主訴の患者	ありません。	運用中	病院間の転院搬送、救出困難症例、閉じ込め症例の患者を対象に1台保有している。	運用中	患者搬送車としても上記で回答した1台のドクターカーを運用しております。	ない				築29年	
	豊橋医療センター	3,612	現状と同程度の受入であれば持続できる	24時間受け入れていますが、休日・夜間は時間外(当直)の体制となっております。	2次救急患者であれば概ね可能です。	ショックバイタルの上部消化管出血については対応が困難となる場合があります。	運用なし		運用なし		ある	豊橋市民病院	特段の目立った傾向はありません。	特にありません。	地域医療連携室を通じてご連絡ください。	20年
	成田記念病院	2,344	<b>現状よりも受入を増やしたい</b>	受け入れ自体に違いはないが、体制的には休日・夜間帯は日直医師・当直医師が対応	一般的な2次救急患者	脳外科・循環器内科・婦人科・精神科領域の救急患者	運用なし		運用中	転医搬送1台	ない				13年	
豊川市	豊川市民病院	8,225	現状と同程度の受入であれば持続できる	24時間365日	原則として全ての重篤な救急患者		運用中	要請可能日時=水曜日を除く平日9時00分～16時15分  出動基準 1. 目撃のある心肺停止 2. 冷汗及び呼吸困難を伴う胸痛(心疾患を疑う症例) 3. 高エネルギー事故 4. 多数傷病者症例(5名以上が負傷していると予想される場合) 5. 前号に掲げる場合のほか指令センター員、現場最高指揮者、救急隊長が出動必要と判断した場合  出動エリア 豊川市全域  保有台数 1台	運用中	明確な出動基準はないが、当院の必要に応じて運用している。 保有台数 1台	ない				築12年(2013年5月移転新築)	
	総合青山病院	691	現状と同程度の受入であれば持続できる	平日昼間が中心で、夜間は当直医が受け入れを決めているため少ないです。	2次救急で高齢者の肺炎、外傷、骨折など	脳卒中は対応不可です	運用なし		運用なし		ない				16年	
	医療法人桃源堂後藤病院	115	現状と同程度の受入であれば持続できる	平日診療時間内に受入 休日夜間は受入していない	骨折や腰痛	急変のリスクのある人、重度認知症患者	運用なし		運用なし		ない				50年	
蒲郡市	蒲郡市民病院	3,723	<b>現状よりも受入を増やしたい</b>	24時間	救急にいらっしゃった患者は基本的に受け入れ、状態によって高次医療機関に転送することがあります。	・心臓外科を必要とする方 ・高度熱傷の方 ・透析が必要な方(機器の空き状況によります) ・重度の精神疾患を併発されている方	運用なし		運用なし	ある	豊川市民病院、豊橋市民病院、名古屋市立大学病院	手術後や急性期を脱した患者、当院の周辺地域、生活拠点とされている方	特に条件はありません。	紹介状、患者情報提供書の事前送付。窓口は患者支援センターとなります。	28年	
田原市	JA愛知厚生連 渥美病院	2,273	<b>現状よりも受入を増やしたい</b>	24時間受入体制有り	小児の内科疾患、眼科疾患、当院で管理していない産婦人科疾患以外の症例が受入対象	小児の内科疾患、眼科疾患、当院で管理していない産婦人科疾患が対応不可	運用なし		運用なし	ある	豊橋市民病院	急性期治療を終えた脳梗塞疾患、がん症例、肺炎等が多い。	急性期治療が終了して状態が安定していること。	地域連携室に連絡して転院相談してもらう。窓口は地域連携室。	築25年	
新城市	新城市民病院	1,312	現状と同程度の受入であれば持続できる	24時間365日	設問8以外の患者	超急性期の脳卒中、心血管疾患、ICU管理が必要な患者	運用なし		運用なし	ある	豊川市民病院、豊橋市民病院、豊橋ハートセンター	リハビリ目的患者、当院から紹介し急性期治療を終えた患者、退院支援に難渋している患者	個々の患者状態等による	診療情報提供書、看護要約/医療福祉相談室	西病棟1982年、リハビリ棟1987年、MRI棟1988年、南病棟1993年、北病棟1995年、外来棟1996年	

3. 回復期に関するアンケート結果(再掲)

病院名	専門職の人数(常勤数ならびに常勤換算数)	回復期リハビリテーション病床数	地域包括ケア病床数	回復期リハビリテーション病床の稼働率	回復期リハビリテーション病床の稼働率	回復期リハビリテーション病棟に入っているor入院可能な患者の医学・身体的な状況	地域包括ケア病床へ入院対象となる患者状況	地域包括ケア病床に転院・入院を受け入れる際の患者状況	回復期リハビリテーションの余力	地域包括ケア病床の余力	対応可能なリハビリの領域、疾患等	対応困難なリハビリの領域、疾患等	より高次の医療機関からの患者の転院を受け入れる際の患者の状態等に関する条件	その転院元	高次医療機関からの患者の転院を受け入れる際の患者の状態等に関する条件	高次医療機関から患者の転院を行う際に、高次医療機関側が行うべき事務手続き	主治医意見書の要否	転院の申し込み完了から実際に転院が完了するまでの時間	転院を受け入れる際の移動手段等	病院床年数	連携または構築に関する高齢者施設等施設の区分	上位3施設名称
豊川市	医療法人啓仁会 豊川さくら病院	医師:常勤4名、常勤換算5.6名 薬剤師:常勤2名、常勤換算2.6名 看護師:常勤33名、常勤換算36.7名 准看護師:常勤5名、常勤換算5.8名 理学療法士:常勤40名、常勤換算40.7名 作業療法士:常勤18名、常勤換算18.5名 言語聴覚士:常勤12名、常勤換算13.6名 検査技師:常勤3名、常勤換算3名 放射線技師:常勤1名、常勤換算1.6名 管理栄養士:常勤3名、常勤換算2.8名 社会福祉士:常勤4名、常勤換算4名	0	9割以上	0	回復期リハビリテーションを要する状態の患者(別表第九の二)に該当する患者であれば医学・身体的な状況は問わないが、設備の関係上、体重が120kg以上ある患者については要検討			現状以上に受け入れたい		脳血管疾患、運動器、呼吸器、廃用症候群	心大血管疾患、がんリハ	ある	豊川市民病院、豊橋市民病院、岡崎市民病院	精神状態が安定していること(暴言や暴力がある場合は受け入れが難しい)	FAXIによる情報提供 転院調整の窓口は地域連携室	診療情報提供書という意味であれば必要	2週間以内の調整を心がけている	患者家族による家族送迎のほか介護タクシーがよく利用されている	築3年(2022年に新築移転)	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム);有料老人ホーム;サービス付き高齢者向け住宅(サ高住);	ナーシングホーム 舞々、特別養護老人ホームジャルダン・リウ、介護老人保健施設たんぼぼ
	医療法人鳳紀会 可知病院	医師 常勤 3 換算 3 PT常勤 36 換算38.2 OT 常勤22 換算22.7 ST常勤 6 換算 6.7 リハアン 常勤3 換算 3.4	50~79	0	9割以上	0	回復期リハ病棟疾患の患者(別表第九の二)に該当する患者であれば医学・身体的な状況は問わないが、設備の関係上、体重が120kg以上ある患者については要検討		現状と同程度であれば持続可能		運動器リハビリテーション(大腿骨骨折 圧迫骨折など) 脳血管リハ(脳出血、脳梗塞、脳腫瘍術後など 廃用症候群リハ(肺炎治療後等)	心大血管疾患リハ 呼吸器リハ ガン末期	ある	豊川市民病院	患者紹介状を総合相談センターあてにFAX送信頂く。	なし	12日程度	介護タクシー 家族による搬送	13年	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム);介護老人保健施設(老健);有料老人ホーム;		
地域包括ケア病棟を有する病院	豊川市	医療法人桃源堂 後藤病院	医師 1名 理学療法士 5名 セラピスト 4名	0	30~49	0	9割以上	急性期治療は終わったが、自宅への復帰のため引き続き経過観察や治療が必要な患者;自宅や施設で生活中に体調不良を認め、集中治療の必要はないが入院治療が必要な患者;レスパイトが必要な患者;	急性期の治療が必要な方、重度の認知症の方、60日以内に退院が困難な方	現状と同程度であれば持続可能	運動器リハ(大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症等) 脳血管リハ(脳卒中)	呼吸器(肺炎) 循環器(心不全) 終末期	ない							50年	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム);有料老人ホーム;介護医療院;	ちぎり、平尾荘、さながわ
		蒲郡市民病院	医師:1人 理学療法士:12.8人 作業療法士:7人 言語聴覚士:5人	0	50~79	0	7~8割	急性期治療は終わったが、自宅への復帰のため引き続き経過観察や治療が必要な患者;自宅への復帰や社会復帰にむけて、リハビリテーション加療が必要な患者;自宅や施設で生活中に体調不良を認め、集中治療の必要はないが入院治療が必要な患者;レスパイトが必要な患者;	主に急性期治療後の経過観察・療養が必要な患者、在宅・生活復帰のための支援が必要な患者が対象となります。	現状と同程度であれば持続可能	特に制限はありません。	特に制限はありません。	ある	特別養護老人施設や介護老人保健施設、介護保険外施設等様々です。	特に条件はありません。	紹介状、患者情報提供書の事前送付。窓口は患者支援センターとなります。	必須ではありませんが、ごまじましたら送付をお願いします。	適宜速やかな対応を心がけておりますが、病床の空き状況や患者の状態により変動いたします。	介護タクシー	28年	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム);サービス付き高齢者向け住宅(サ高住);有料老人ホーム;	竹谷すみれハイム、有料老人ホームはあと、蒲郡眺海園
	田原市	JA愛知厚生連 渥美病院	理学療法士27名、作業療法士11名、言語聴覚士8名、リハビリテーション科医師1名(兼務) ※全て常勤職員	0	50~79	0	7~8割	急性期治療は終わったが、自宅への復帰のため引き続き経過観察や治療が必要な患者;自宅への復帰や社会復帰にむけて、リハビリテーション加療が必要な患者;自宅や施設で生活中に体調不良を認め、集中治療の必要はないが入院治療が必要な患者;レスパイトが必要な患者;	集中治療の必要がないこと、短・中期間での退院が見込めること(入院時は看取り前提でないこと)	現状と同程度であれば持続可能	運動器、脳血管疾患、呼吸器、心大血管、廃用症候群、がん	障害児・障害者	ある	豊橋市民病院	診療情報提供書	不要	1~2週間程度、余裕を持って相談していただくことが多い。	自家用車、介護タクシー等	25年	介護老人保健施設(老健);介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム);認知症高齢者グループホーム;	田原福寿園 あつみの郷 伊良湖ケアセンター	
		新城市市民病院	常勤数:医師21、看護師102、理学療法士13、作業療法士5、言語聴覚士3 常勤換算:医師(4.38)、看護師(27.87)	0	50~79	0	5~6割	急性期治療は終わったが、自宅への復帰のため引き続き経過観察や治療が必要な患者;自宅への復帰や社会復帰にむけて、リハビリテーション加療が必要な患者;自宅や施設で生活中に体調不良を認め、集中治療の必要はないが入院治療が必要な患者;レスパイトが必要な患者;	個々の患者状態等により異なる	現状以上に受け入れたい	脳血管疾患等リハ、廃用症候群リハ、運動器リハ、呼吸器リハ、がん患者リハ、摂食機能療法	心大血管疾患リハ、視能訓練、難病患者リハ、障害児(者)リハ、認知症患者リハ、リンパ浮腫複合的治療、集団コミュニケーション療法	ある	豊橋市民病院、豊川市民病院、豊橋ハートセンター	個々の患者状態等により異なる。	診療情報提供書、看護要約/医療福祉相談室	不要	約1週間	個々の患者状態により異なる。	西病棟1982年、リハビリ棟1987年、MRI棟1988年、南病棟1993年、北病棟1995年、外来棟1996年		